



基本理念

1. 社員で考え、社員のための労働運動を目指す 企業内労働組合
2. 心とこころをつなぐ相互扶助活動と、次代につなぐ社会正義の実現を目指す

JUSTICE

自らを変える!! 明日を創る!! イーストイノベーション

ジェイアール・イーストユニオン

発行者 菅野 一位

編集者 教 宣 部

〒105-0021

東京都港区東新橋 2-8-28

TEL(JR) 057-7333

TEL(NTT) 03-6452-9687

ホームページ検索

「JRユニオン」

ジェイアール・イーストユニオン

第9回中央委員会開催!

運動の基調

1. 『イーストイノベーション』を掲げ、魅力と信頼のある組織を築き仲間の総結集を目指す
2. 「安全は絶対に譲らない」との信念の下、職場から「重大労災防止の行動指針」を実践し、すべての社員が参画する「JR関係労働者の 死亡事故・重大労災ゼロ」を実現する
3. 変革2027中間点「豊かさ」「信頼」創造する価値をさらに発展させる
4. イーストイノベーションを実現し、2023春季生活闘争からの生活改善、私たちの求める会社像、労働組合像を創造する

議長に、青田節雄中央委員(仙台地方本部)を選出し議事に入りました。菅野中央築港委員長挨拶(要旨)
ジェイアール・イーストユニオン第9回中央委員



青田議長

ジェイアール・イーストユニオン第9回中央委員会は、令和5年(2023年)2月8日、田町交通ビルで開催しました。新型コロナウイルス感染症拡大のため、約3年ぶりに会場に中央委員の参加と、新潟地方本部とリモートを併用し開催しました。

会にご参集の中央委員の皆さん、大変ご苦勞様です。また新型コロナウイルス感染症拡大が続く中、安全輸送の遂行や感染防止等、日夜ご精勵いただいている組合員の皆さんに心より敬意を表します。また本日は、JR連合から政所事務局長、相良組織政治局長、戸田職員にもご出席いただいております。後ほどご挨拶をいただきます。私たちが取り巻く環境は極めて厳しい状況下の中にあり、先行きを見通すことが難しい状況が続いています。日本経済は、繰り返されるコロナ感染拡大の影響やロシアのウクライナ侵攻、ゼロコロナ解除後の中国の動向などで、世界的規模での懸念材料による影響により、経済回復のペースが鈍化しています。この影響は働く私たちの実生活にも直接インフレ圧力となり家



菅野中央執行委員長

計への重石となっています。しかし新型コロナウイルス感染症がやや和らぎ感を見せ、3年ぶりの行動制限のない年末年始やコロナ感染症が2類から5類へと5月には切り替わります。そんな明るい兆しと共に、「変革2027」から次の30年に向けたJR東日本の大転換期を、JR東日本・東日本グループがそこで働く社員と一体となって乗り越えていかなければなりません。そのためには社員の家庭生活、職場生活、社会生

活での発展が土台とならなければ、会社の持続的発展にはつながりません。そう言った中での課題・問題を踏まえ、本委員会での主要課題となる3点について提起します。

昨年7月に開催した定期大会で、私たちの掲げた目的・目標をこのコロナ禍を理由に投げ出すわけにはいかないとし、この組織で何とかしていこうと力合わせの決議をして今日まで活動を展開してきました。第3四半期を増収増益で黒字化を達成できた中で、「企業内労働組合」としてしっかりと次に向けた組織の議論をまずはお願います。

この間私たちは幾度となく、この会社を良くするためにとの思いから、労々問題、労使課題に向き合ってきました。東労組の瓦解から「やっとここまでできた」と思ったのも束の間で、今度は会社が労働使間に大きな壁を突きたててきました。

今の職場現状を見れば、施策に掻き立てられている中での社友会では、社員の気持ちをつなぎとめることはできないと思います。増してや国鉄改革に匹敵する現状の変革は、現場社員と一体となって取り組むことが必要ですが、会社主導の社友会では一部の社員だけが取り上げられ動いていることを現場の社員は知っているため、その反動が職場コミュニケーションを悪くし、モチベーションを低下させることになりつつあります。結果、現場の社員の中には会社の意に反した労働組合に流れることも危惧されます。

そんな状況下に陥らないため、私たちは今まで先輩方からつなぎこの組合で頑張ってきました。やはり私たちはこのつないできた組織の考え方で、この会社JR東日本を良くしていくという思いしかなかった。それが企業内労働組合として継承できるのであれば、あらゆる考え方や行動があることを否みません。

そのためには、やはり少しでも私たちのこの組織に組合員を増やすしかありません。

JR北労組での組織拡大の事例をお話しします。新採社員がJR北労組に加入しました。これまで12名の加入者があり彼はその中でも若い方でした。過日、加入者集会を開催し意見交換した際、若い組合員が一人の職場となっていることに気遣い話しをした際に、彼から「私はJR北海道に入社し、自分がこの会社でどう生きていくかを考えたときに、自身で選んだのがJR北労組だった。自分でいろいろ見て決めたことだから大丈夫です。」と言われたそうです。オルグして逃げ腰になっていたのは、オルグした側だ

つたと、逆に激励された感じになったと。

加入させることではなく、この会社で働き楽しく生きていくためのお手伝いがオルグだと思いませんか。ぜひ、皆さんも一緒に考えてみてください。

次に、2023春季生活闘争についてです。

メディアでは、岸田首相をはじめ経団連など、賃上げの話しを経済活性化と連動させた取り組みとして、労働界からの要求とは別次元での賃上げであるかのように報道されています。新聞等では主要産別の要求が掲載されていますが、労働界から盛りますが見えてきません。そういった中で、当社は社友会との意見交換として会社幹部との話しを取り上げ、社友会二ユースとしてコミュニケーションボードに掲示しています。労働組合で言えば経営協議会であろうかと思いますが、経営協議会

は非公開です。こう言った観点からみても、社友会の揭示は労働組合で言えば信義違反行為です。労働組合でないからいいのか、意見交換だからいいのか、こういった行為は会社の言うコンプライアンス違反にならないのかと疑問を感じています。

労働組合が会社と交渉し、賃金や労働条件を決めるのは当たり前の行為です。

社友会との対応の違いがあらさまであれば、現場から見ている社員はどう感じるでしょうか。会社主導のこの在り方が当たり前と考えて、安心して現場で仕事が行われると思うのでしょうか。

私にはもう一つの大きな疑念であり、危惧をしています。

そう言ったことを念頭に置きながら、この間の状況をしっかりと分析し議論して出した2023春闘方針を今委員会で提起

します。会社に向き合うべき時、会社と強く議論すべき時をしっかりと見極めて出した方針です。JR連合「ONE TEAM」としての純ベア要求と共に、この間のコロナ禍からの脱却、施策展開からの生産性向上、そして持続的会社発展の為人財への投入分としてプラスαを加味した要求を掲げます。この要求を契機に、過渡期となっている鉄道特有の労働として、まだ必要とされるエルダー職の給与見直しについても、今後もしっかり取り組んでいきます。 安全問題、技術継承、人材育成・確保など、会社の持続的発展にむけた課題と私たち組織の取り組みについてです。 「安全は絶対に譲らない」信念の下、すべての社員が参画する「JR関係労働者の死亡事故・重大労災ゼロ」を実現することは重要な課題です。鉄	道事業を主体とする当社の一番の信頼は、輸送の中での安全でしかありません。ベテラン世代からの技術継承の壁は、10年の経験値差の解消が大きな課題です。ベテランが再雇用となっている現状の中で、形だけの継承ではこの難しい課題は解消できません。エルダーとなつて働く私たちの存在は、持続的な部分に關与する大事な労働資源であることとを改めて訴えることが必要だと考えています。 労働組合としての労使関係再構築の中で、企業改革で新たなことに進む若い力が必要なことは当たり前ですが、経験値を持つ土台となる我々の力も改革には必要です。歴史から学ぶことはよく言われることですが、それを実践すること事が重要です。 「変革2027」の実現には、一部の優秀な社員だけでなく、普通の社員	の力の結集が間違いなく必要です。その結集させる活動を、労働組合の中で私たちが実践してきたことを思い起こしてください。エルダー社員だからできないではなくまだまだできる事があります。 JR東日本・東日本グループに集うすべての人材を包摂する労働組合の輪を、これまでつないできた当たり前の考え方で、JR東日本の中に創る運動を職場から展開していきます。 イーストユニオンの原点を振り返れば、JR東日本はもとよりJR産業に集うすべての仲間が寄り添い、心と力を合わせて未来を切り開いていくために、ここまで来ました。中央委員の皆さんにはその歴史と思想からの発言を強く要請し、今委員会からつなげる活発な議論を心よりお願いしまして、中央執行部を代表しての挨拶といたします。
---	--	---



JR連合政所事務局長

JR連合 政所事務局長挨拶 (要旨) 3年間新型コロナウイルス感染症拡大対策を実施してきた。航空連合サービス連合と三産別共同行動を実施し、全国旅行支援、分散使用など私たちの意見が入っている。今後も、社会、政治、行政に発信していく。 JR連合結成30周年記念行事を昨年10月開催した。JR産業の今後30年を見据えた提言を発信している。また、ホームページにアップしている	ので、会社、他労組組合員へ広げる運動をお願いする。 JR東日本の情勢をみると、社友会を中心に、同志や労働組合はいらないような状況がみられる。しかし、皆さんの理解者はいる。ネットワークを広げる運動を継続して取り組んでほしい。 春闘の取り組みについては、経営体力が回復していない状況で、今年は連合方針をもとに、ベア要求を掲げた取り組みを実施する。離職が各社同様拡大している。人材がその産業を支えている。他産業は人の囲い込みに躍りになっている。 賃金だけでなく、様々な制度、転勤、夜勤等働く者のニーズに合わない辞めていく。持続可能な労働条件制度を要求していく。 産業政策をリンクした取り組みで、賃金を上げ	るには原資が必要。地方路線、赤字路線を内部補助だけで良いのか。企業、地域、国が一体となった構造改革が必要である。 組織について、JR連合は各地方本部との意見交換会に参加させていただいている。世代交代が進む中で国鉄採用者の組合員が60歳になる。 若い人が動いているか。働く者、周りの者の意見を聞く活動が重要。現有勢力をまとめることが必要である。 われわれの運動は正しいということを広める運動を実行する。開かれた組織と運動を行う。ジェイアール・イーストユニオンの運動を理解、認知しているか。SNSの活用など情報発信の取り組みは重要となっている。 社友会を意見集約機関として。疑似労働組合のようにしている。正しい労働組合が必要である。
--	--	---

J R 連合は今後も全面的なバックアップを行っていく。
共に頑張りましょう。

J R 連合来賓の皆さま
相良組織政治局長
戸田職員

メッセージ

J R 連合加盟各単組
執行委員長様

発言内容

- ・お客さまはコロナ前にもどっていない状況で窓口閉鎖が進み、窓口がある駅に集中し混雑している。
- ・MV撤去したが、再設置がないため混雑する。
- ・新幹線停車駅窓口閉鎖で話せる自動販売機等の対応をキチンとすることを要請した。
- ・eチケットのメリット、デメリットがある。改善が必要である。

- ・羽越線慰霊碑献花と陸羽西線バス代行運転状況を視察した。
- ・オイスカ名取ボランティア活動実施。
- ・コロナ禍でも職場を守ってきた。全社員の頑張り第3四半期も黒字となった。
- ・物価高騰で家計を圧迫している。社長の賃上げについては慎重とする発言があったが黒字化できた。
- ・J R 東日本がJ R 産業をけん引すると発想を転換し賃上げを実施すべきだ。
- ・モチベーション、働くことを維持すること。離職防止が重要。
- ・定期昇給・ベア要求の満額回答を求める。
- ・我々の要求は決して突出したものではない。
- ・総対話集会を実施し、組織拡大・強化の取り組みを実施した。
- ・財政問題の早期解決を

お願いする

- ・離職防止には、企業の維持発展に相応しい労働条件の確立が必要。
- ・一昨年の定期昇給係数2を回復させる取り組みが必要。
- ・組合の役割は雇用と安定であり、物価高騰の中での賃上げは絶対的に必要である。
- ・グループ内での人材確保に労使で叡知を結集しなければならない。

総括答弁



菅井事務局長

- ・三年ぶりに対面で開催となった。
- ・現場で働いている方の意見が大切である。窓口閉鎖で不便しているお客様がいるのも事実。
- ・会社施策に対し、声を出すことが大事である。
- ・第3四半期の黒字は危うい黒字であった。会社は更なるコスト削減を出してくる。
- ・人材育成への投資は非常に重要である。人と人のつながりが大切であり、いかにしてお金をかけていくかが大切である。
- ・会社施策に現場は対応に追われている。
- ・すべてできる社員ばかりではない。しっかりホロ1できる体制を作る。そこから組織拡大につながる取り組みを行う。
- ・今までやってきたことを愚直に進める。
- ・この一年間組織拡大に向けてしっかりと取り組みよう。



第9回中央委員会の決議を経て、2月13日会社へ2023年度賃金引上げ、諸労働条件改善要求を申し入れました。

賃金引き上げについて

- (1) 定期昇給を実施し、その際の昇給係数は4とすること。

- (2) 2023年4月1日の定期昇給後の基準内賃金を、統一要求3,000円引き上げるとともに物価高騰、生産性向上分として3,000円を加えること。

2 雇用について

- (1) 社員及びグループ会社社員の雇用を約束すること。

3 回答期限

- (1) 上記申入れに対する回答期限を、令和5年3月18日までにする。

諸労働条件改善要求

- 1 就業関係
- 2 賃金関係
- 3 退職手当関係

